

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所あにまーと		
○保護者評価実施期間	8年 1月 19日	～	8年 3月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 3名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	8年 1月 19日	～	8年 3月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携や共通理解の促進に強め、相談事への対応にも迅速に取り組んでいる。	普段から些細な事でも保護者に伝え、信頼関係の構築に努めている。困りごとがあった際には、子供を取り巻く環境を把握し、全体を見た適切な支援を心掛けている。	今後とも保護者に寄り添い、共感を持って対応するとともに、適切な関わり方を分かりやすく伝えていく、研修にも積極的に参加し柔軟な考えを維持しながら特製の理解を深めていく。
2	職員間の風通しのよさを大切にし、チームワークを重視した支援に努めている。	申し送りノートを使用して職員間での情報共有をし、支援について考える際に多角的な視点を大切にしながらよりよい支援につなげている。	申し送りノートのほかに支援前後に話し合いを設け、記録の共有や短時間の研修を取り入れることで、職員一人一人の支店や学びを積み重ねていく。さらに全員が意見を言えるよう工夫を行い、多角的な視点を生かしながら、より充実した支援につなげていく。
3	子供にとって安心感を持って過ごせる居場所を作っていることや、行事や余暇活動を楽しみながら過ごせるよう、工夫して支援している。	見通しの立つスケジュールなどの視覚的支援を取り入れ、分かりやすい支援を心掛けるとともに、子供一人ひとりの特性やニーズに寄り添った環境作りを意識している。	子供がより主体的に活動に参加できるよう、遊びや行事の内容を本人の興味や希望に応じて柔軟に取り入れていく。また、保護者との情報共有を強化し、家庭との連携を深めることで子供一人ひとりに合った支援を充実させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子供の十分な活動スペースの確保など、環境面の整備が課題となっている。	バリアフリー化はしているが、バギーなどから降りてゆっくりしてもらっている時にバギーの置き場などにスペースをとられてしまい子供たちの活動スペースが十分でないことが課題の要因となっている。	活動スペースについては家具配置の工夫や活動内容の調整を行い、限られた面積を有効に活用する。バギーの置き場については使用していないスペースに置くなど検討していく。
2	放課後児童クラブや地域の子供との交流機会が限られており、事業所内での交流しかできていない。	地域とのつながりを持つための働きかけや調整が不足していること、また交流を企画・実施するための体制や機会が十分に整っていないことが要因となっている。	季節によって散歩などから小さな交流を得て、関係機関との連携を図り、小売り流の場や行事の参加の機会を検討する。また保護者のニーズを把握していく。
3	個別の相談ごとには対応しているが、家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)として、家族も参加できる研修会や情報提供の機会が不足している	家族支援プログラムを行える、専門性を持つ人材の確保が難しく、その人材による研修会の体制が整っていない。人員や時間的な制約、実施場所や費用の確保の難しさ、また保護者の参加ニーズの把握する仕組みが整っていない	専門性のある人材の確保と、保護者向け研修会の実施機会について検討していく。職員の研修や地域機関との連携を進めることで、家族支援に関する知識や体制を整えていく